

2007年4月1日ソロモン地震津波 パプアニューギニア、ソロモン、ニューヘブリ デス諸島の津波規模

The Solomon Earthquake Tsunami on April 1, 2007– Tsunami Magnitudes in the Papua New Guinea, Solomon and New Hebrides Regions.

羽鳥 徳太郎 [1]

Tokutaro Hatori[1]

[1] なし

[1] None

2007年4月1日20時39分(UT)、ソロモン諸島北部で大地震(M S7.9)が発生し、太平洋各地で津波が観測された。震源域内のギゾ島・シンボ島の村むらの集落が洗い流され、死者52名、住家被害約800棟などと報道された。現地調査によると、両島で遡上高5~9mに達した(都司・他、2007)。各地の検潮記録から、震央距離-波高関係図によれば、津波マグニチュードは $m=2$ と判定される。地震の規模と比べ、平均的な値である。太平洋全域の全振幅値分布に、振幅偏差を区分してみると、震源周辺のホニアラとケアンズ(オーストラリア)では、平均的な振幅値であり、中部太平洋諸島が小さい。しかし、ニュージーランド西岸域では全振幅60~110cmに突出して、伝播図から屈折効果が認められた。

PNG~ニューヘブリデス間では、地震活動が顕著である。19世紀以降、大規模な津波($m=2.5\sim-3$)が4回、 $m=2$ クラスが9回あった。1971年以降、日本沿岸ではM7クラスの地震で、津波が6回観測されている(全振幅10~30cm, 伝播時間6~8時間)。1998年PNG津波は、特異(遡上高10-15m)であったが、地震規模と比べて標準的な津波が多い。ニューヘブリデス南部では、1878年にM8クラスの地震で $m=3$ の大津波が伴い、以後約130年間平穏期が続いている。今後の地震活動に注目したい。